

達人ガイドがご案内

この秋行きたい 大人が楽しい博物館

長い歴史の中から厳選された逸品がそろった博物館は、大人になった今こそ、多くの発見がある場所。

学びたい意欲の高まるこの季節だからこそ、博物館へ。

今回は、ものづくりの発想を得に、

よく博物館を訪れるというクリエイターおふたりが、

東西2か所の博物館をピックアップ。

見どころや楽しみ方のコツをご案内いただきました。

photograph: Wakana Baba(Tokyo), Noriko Yoshimura(Osaka) edit & text: Kaori Suzuki



【案内人】



バッグデザイナー
江面 旨美さん

「国立民族学博物館」は開館当時から、何度も訪れているお気に入りの場所。



手仕事キュレーター
石田 紀佳さん

手仕事の逸品が間近に見られる「日本民藝館」には、よく足を運ぶそう。

- 大きな空間を使ったダイナミックな展示法も「みんぱく」の魅力。色彩でも圧倒する。
- 「触れられる展示もあるのもこの博物館ならではのすよね」と江面さん。
- メキシコの都市、オアハカの木彫りの動物も江面さんのお気に入り。「特に犬が好きですね」
- 日本エリアで見られる神事に使われるわら細工も多種多様。壁一面に並ぶ様は壮観。

2	1
3	
4	
5	

1 柳宗悦の審美眼にかなった「民藝」の世界に静かに身を投じる時間は、このうえなく贅沢。



建物の内と外をつなぐ水の空間が美しい「エントランスホール」。

2	1
3	

- 1 江面さんが特にお気に入りなのが、漢字の「出」のような形をしたアフリカの仮面「カナガ」。
- 2 「この帽子のステッチを見た時、すごく刺激を受けました」。こちらは、アンデス地方の衣装。
- 3 エジプトのラクダに付ける「腹帯」もバッグ制作のヒントに。「ステッチも面白いでしょ？」

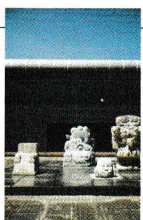


Africa



広大なスペースに、世界の地域別に展示エリアが作られている。「日本の文化展示が好きんだけど、順路通りにまわると一番最後だから、着いたときにはヘトヘトなのよね(笑)」と江面さん。

East Asia



information

大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 ☎ 06-6876-2151 (代表)
 🕒 10:00～17:00 (入館は16:30まで)
 🗓 毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日が休館日)、年末年始(12月28日～1月4日)

1977年、大阪万博跡地に開館した博物館。文化人類学、民族学に関する研究・調査を行い、研究者が世界各地で収集した標本資料や映像、音響、文献図書を公開。収蔵品は、現在約34万5千点。

「みんなく」で世界をめぐる



江面旨美さんが案内する
国立民族学博物館



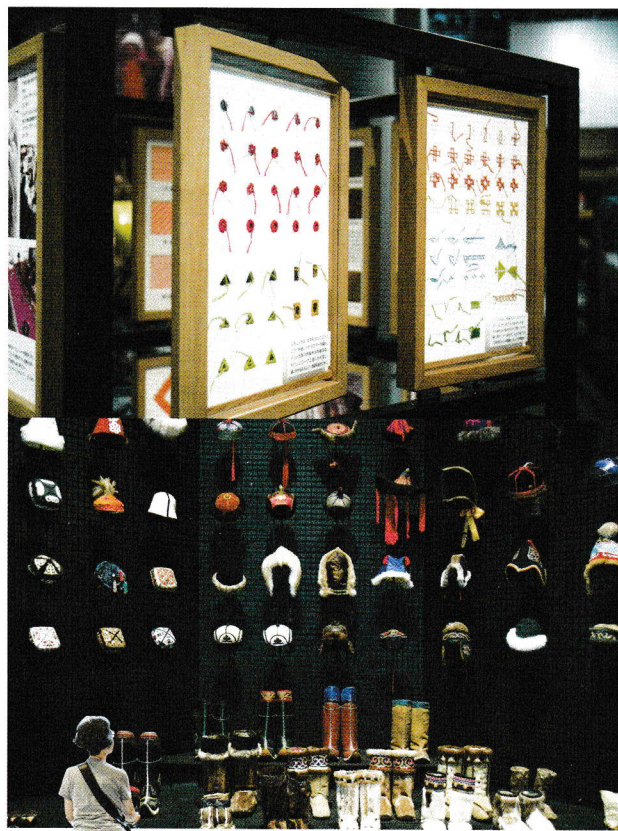
館内はかなりの広さなので、途中で休憩できるスペースも。様々な木製の椅子が輪になって並んでいるのもかわいい。



言語別にデザインを変えた館内案内もかわいい。



一面ガラス張りの向こうには、「未来の遺跡」と名付けられた空間が。この建物の設計は黒川紀章氏によるもの。博物館の建物自体も大きな見どころのひとつ。



写真上：インドの「ミラー刺しゅう」の手順もわかりやすく展示しており、手芸好きにもうれしい。写真下：帽子と靴は、北アジアの寒冷な環境や中央アジアの乾燥した環境に適応するため欠かせない。

OSAKA

取材時は開催前だった特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」(11月26日まで開催)の展示設営の裏側を特別に見せていただいた。この特別展の実行委員長の山中由里子教授は、比較文学比較文化が専門。編著に『〈驚異〉の文化史——中東とヨーロッパを中心に』がある。「世界各地で想像上の生きものが描かれ、形作られていますよね。どうして人はこんなに不思議な生きものに惹かれるのか。とても興味深いテーマです」。



江面旨美さんが初めて「みんぱく」を訪れたのは、1977年の一般公開が始まった年。以来、何度も足を運んでいる。世界各地の文化や人々の生活にまつわる膨大な資料が、床から高い天井まで立体的に配置され、その迫力に圧倒される。「物が多いのに見やすいのは、背景が黒だからかも。しかも、おしゃれでしょう」と江面さん。「造形美を学ぶなら、世界中を見回してもこれ以上のものはない」と、アトソースやインスピレーションを得られる場所として訪れている。「革のベルトやひも類、金属と革を組み合わせ方にも感銘を受けて、仕事上でも刺激をもらっています」。まだまだ興味は尽きない。